

伏見桃山

伏見城跡を歩く

豊臣秀吉の天下の夢舞台である伏見城は、徳川家康が江戸に幕府を開くと取り壊されて、跡地は桃畑となり明治維新を迎えます。慶長文化が開いた伏見は桃山の名も冠した地名となり、明治維新には歴史変革の激動の舞台となりました。

壊された城下の痕跡は近年の発掘調査の成果でよみがえり、往時を垣間見せてくれます。伏見城跡周辺を歩き、伏見城と町並みの今昔を訪ねる歴史ルートをご紹介します。

〈京都市内の伏見城伝承遺構〉

- 〈東山区〉
- ・豊国神社 唐門
 - ・養源院 血天井
 - ・高台寺 茶室
 - ・長楽寺 本堂
 - ・円徳院 本堂



- 〈伏見区〉
- ・御香宮神社 大手門
 - ・醍醐三寶院 唐門
 - ・崇春寺 総門
 - ・源空寺 山門・大黒天



- 〈左京区〉
- ・宝泉院 血天井
 - ・南禅寺金地院 方丈
 - ・寂光院 雪見灯籠

- 〈下京区〉
- ・西本願寺 唐門
 - ・正行院(猿寺) 本堂



- 〈北区〉
- ・正伝寺 方丈・血天井
 - ・源光庵 方丈・血天井

- 〈上京区〉
- ・観音寺 山門

- 〈右京区〉
- ・二尊院 総門



ふしむもやまじょう 伏見桃山城
1964年に建てられた、コンクリート造りの模擬天守閣。この場所は御花畑山荘があったところと推定されており、実際の伏見城天守閣のあった位置とは異なっています。(天守閣は現在非公開です)



このみやじんじや 御香宮神社
清和天皇より「御香宮」の名を賜ったと伝わる神社です。桃山時代の本殿は、徳川家康により建立されました。表門は旧伏見城の大手門の遺構といわれ、境内には秀吉を祀る豊国社と、家康を祀る東照宮の両社があります。

伏見寄り道ルートの見どころ

伏見城の外堀であった濠川(ほりかわ)周辺は、京都市条例の伏見南浜界外風景観備地区に指定される美観地区です。伏水に恵まれた酒造りの伝統的な酒蔵等もあり、明治維新ゆかりの地や、大坂からの水路として、交通の要衝の運河発着場の雰囲気を残しています。余裕があれば、伏見城下や明治維新の人々の歴史を思い描き、歩いてみてはいかがでしょうか。



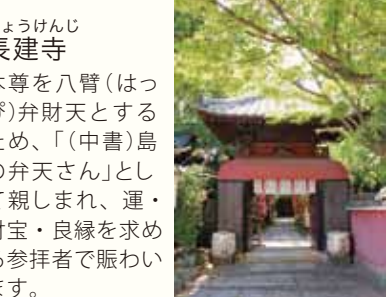
げんくうじ 源空寺
徳川家康によって伏見城内のこの地を寄進された寺院。二層からなる珍しい山門は、伏見城築城のときに移築された遺構と伝われます。また、寺宝の「朝日大黒天」は、元伏見城裏門にあった豊田秀吉の持念仏で、秀吉に天下統一の大福を授けたといわれています。



じゅうごくふね 十石船
江戸時代には、旅人を乗せて大坂と伏見とを結んだ三十石船があり、これをかたどったものが十石船です。現在は遊覧船として、酒蔵と水辺の美しい港町伏見を巡っています。



てらだや 寺田屋
寺田屋事件や、龍馬とお龍との出会いの場所としても有名です。当時の船着き場である「寺田屋浜」も復元されています。



ちやうけんじ 長建寺
本尊を八臂(はっぴ)弁財天とするため、「(中書)鳥の弁財天」として親しまれ、運財宝・良縁を求める参拝者で賑わっています。



このみややびじょう 御香宮御旅所
伏見築城にあたり、秀吉が城内鬼門除けの神としてここに遷宮しました。秀吉の没後、家康が城下町の人心安定のため、再び元の地に戻したことから古御香宮(ふるごころ)と呼ばれ、今は御旅所になっています。鳥居脇や境内にも、伏見城の石材が置かれています。



めいじてんのうらふしみもやまじょう 明治天皇伏見桃山陵
230段ある長い階段を上ったところにある、明治天皇の陵墓。旧伏見城の本丸は、このあたりにあったといわれています。



しょうげんこうたいどうふしむもやまじょう 昭憲皇太后伏見桃山東陵
旧伏見城名護屋丸跡に位置する、明治天皇皇后の桃山東陵。



ふしむじょういしがき 伏見城石垣
(桃山東小学校内)
伏見城の東南に位置する桃山町紅雪で発掘された城の石垣が、正門の左手奥に移築保存されています。



ふしむきたげりこうえん 伏見北堀公園
伏見城北側にあった、外堀の遺構を利用した公園。堀の形状を生かし、中段に武者走りをはじめ、細底には広場や池などが整備されています。



ももやまじょううらふしみ 桃山御陵参道
玉砂利と杉木が美しい参道(上写真)南側に並べられた伏見城石垣の残石(右写真)。大きな石にミジン目のように残っている窪みは、石を切り出すための鑿であけた矢の痕です。



のぎんじや 乃木神社
徳川家康の屋敷跡に、明治天皇御前際に殉死した陸軍大将乃木希典(まれすけ)を祀るため、1916年に創建されました。本殿は明治天皇陵を鎮護するという意味から、北に面して建てられています。



のぎんじや 乃木神社
徳川家康の屋敷跡に、明治天皇御前際に殉死した陸軍大将乃木希典(まれすけ)を祀るため、1916年に創建されました。本殿は明治天皇陵を鎮護するという意味から、北に面して建てられています。

乃木大将の愛馬「環(アラタマ)」像



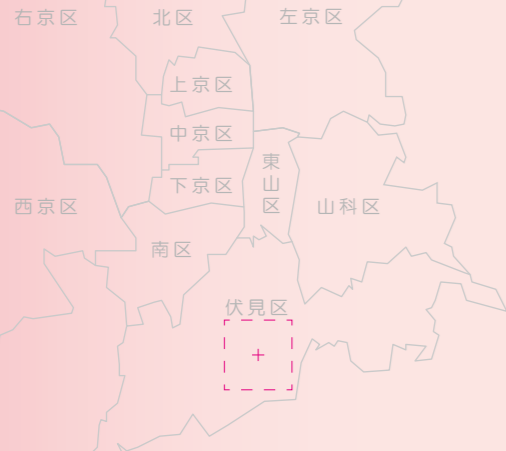
だいきりょうじりょう 大光明寺
かつての大光明寺内に東西に並んで築造された、光明・崇光両天皇と皇孫治仁親王の陵墓。室町時代初期、この辺りに建立された大光明寺は、伏見築城の際に相国寺に移されました。

舟入の跡が、南北約300m、東西約90mの窪地となって残っています。

《マップ用印解説》

- おすすめルート
- - - 寄り道ルート
- 旧伏見城域
- 🌸 伏見城の遺構見学ポイント
- 🚻 トイレ
- 🚔 警察
- 🚧 踏切

伏見 桃山



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

伏見桃山地区の発掘調査

この地区は、伏見城とその城下町が大半を占め、大名屋敷に由来する数多くの町名が残されています。伏見城の城下町は、西側の丘陵斜面が大名屋敷街、その西側の緩傾斜地が商工業地域の町家街となっています。発掘調査もその大半が伏見城関係になり、大名屋敷街での武家屋敷の石垣や屋敷の建物跡、門跡、町家街での町家跡やそれに伴う道路跡などの遺構、金箔瓦や茶陶類など、当時は使われていた遺物も数多く出土しています。

その他、伏見区役所建て替えの発掘調査では墓地を発見しています。また、桃陵中学校校内の発掘調査では弥生時代中期の方形周溝墓、奈良時代の柱穴・土坑、平安時代の池・土坑等を発見しています。



1 桃山町永井久太郎

発掘調査により、伊達街道の交差点から東へ延びる、上板橋通の路面・側溝・犬行・石垣を発見しています。側溝の石組の中には石仏も使われており、手短な石材を利用したことが伺えます。



2 桃山町永井久太郎

発掘調査により、伊達街道の路面・側溝犬行と街道に面した武家屋敷の礎石列がみついています。ここでは、少なくとも2回の火災を受けたようで、火災後の整地層から焼土や炭とともに、焼けて黒くなった炊米が整理箱1箱分みつかりました。中にはおにぎり状のものもありました。



3 福島太夫西町

発掘調査により、大和街道の東側溝の石組溝と、それに沿った門跡・石垣基礎跡を発見しました。武家屋敷に伴うものです。この調査では佐竹氏の家紋である五本骨扇に月丸紋の軒丸瓦が多数みつかり、佐竹修理大夫の屋敷だと推定されます。



4 京町

京都市呉竹文化センターの建設に伴う発掘調査で、京町通の路面をみつめています。路面は粘質の土で整地した上に、小さな礫を敷き詰めて造られた礫敷きの舗装道路でした。その西側に、幅が約1.4mの素掘りの側溝がありました。通りに面した町家跡からは、水琴窟(底に穴をあけた壺を埋め、水の落ちる音を楽しむ装置)が出土しています。



5 桃山紅雪町

区画整理地の造成工事中に発見され、緊急に調査を行いました。城の東側に位置する、武家屋敷のものと思われ、石垣の一部は桃山東小学校に移築保存され、市の史跡に登録されています。



6 桃山毛利長門西町

マンション建設に先立って調査を行い、上下2時期の石垣とそれに伴う犬行・側溝がみつかりました。これらは大和街道の東側溝(石組)と、毛利下屋敷の西辺に築かれた石垣と推定されます。



7 鷹匠町

伏見区役所建て替えに伴う発掘調査で、伏見城の城下町の造営により、街区・街路が整備された時期および伏見城廃城後、市街地が拡大・充実した時期の遺構・遺物が多数みつかりました。後者の時期には墓地を備えた寺院が営まれていたことがわかりました。墓地は6期に分けることができ、江戸時代初期～昭和初期まで続いたもので、602基の様々な墓がみつかりました。



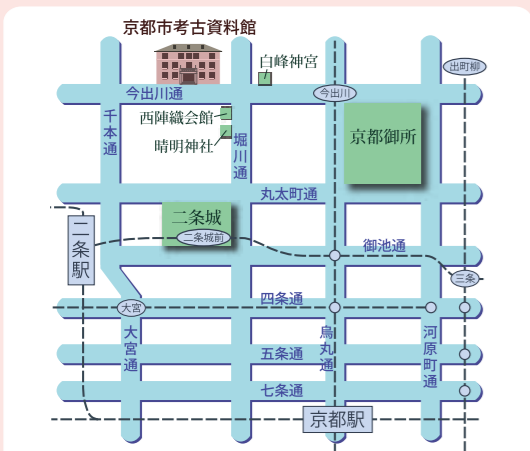
京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



8 東組町

伏見城下町では、桃山時代のとても大きな穴がみつかることがあります。マンション建設に伴う発掘調査で、径が8mで深さが4mあるものや、1辺が10mもある方形で深さが4.5mもあるものなどがあり、この穴の中から当時の様々な遺物がみつかりました。この大穴にはスロープがあり、壘土などの土を採取した穴と考えられ、土を採取した後、ゴミを捨てて埋めたものです。



10 桃山町松平筑前

御香宮の東側にあたる場所のマンション建設に伴う発掘調査で、武家屋敷の建物を見つめました。この屋敷より新しい時期には、明確な遺構をみつけることができませんでしたが、豊臣期の整地層と徳川期の整地層の存在がみつかりました。



12 桃山町立売通

JR桃山駅南のサービスセンターの建設に伴う発掘調査で、立売通の路面・北側溝と通りに面した町家跡がみつかりました。路面は数回にわたって修復されており、轆(わだち)とみられる窪みもありました。また、町家の奥ゆきが約30m(15間)であることが確認できました。



13 桃山町伊賀

大名屋敷の一面にあたります。京都橋中学校・高等学校の新築工事に伴う発掘調査では、2時期の遺構を確認し、古い方は堀状のものが残り、そこから金箔瓦や巨大な鬼瓦・鬼板が出土したことで、付近に重要な建物があった可能性がります。新しい時期のものは堀が縮小され、建物造られしています。



9 桃山町金森出雲

御香宮の西側にあたる宅地造成に伴う発掘調査で、武家屋敷の門跡をみつめました。周囲に花崗岩の敷石を並べ、礎石を配しています。門跡は焼けた瓦を含む焼土層に覆われており、火災により燃え落ちたことを物語っています。門の規模は、御香宮の神門とほぼ同じでした。



11 桃山筑前町

住宅建設工事に伴う調査で、大量の瓦類と石垣をみつめました。特に瓦類には金箔を施したものが多量に含まれており、また鬼瓦や飾り瓦も普通のものよりも大型でした。石垣は南北方向で、絵図からみると、前田利家邸と松平八右衛門邸の南北境界付近にあたりそうです。



14 鍋島町

国道24号線と立売通交差点南東角の調査で、北側と西側に面した(北西角)石垣をみつめました。そこから出土する遺物の年代や石垣がみつかった位置などから、秀吉が最初に伏見に造営した指月城のものと考えられます。



15 桃陵町

山口駿河守屋敷地に推定される桃陵中学校の体育館建設に伴う発掘調査で、数多くの金箔瓦がみつかりました。他地域でみつかった金箔瓦よりも金箔の残りが良好なものです。また、ここからは弥生時代中期の方形周溝墓もみつかりました。

